

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日(当事業年度の中間配当の予定はございません)
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ(http://www.fujipream.co.jp/)に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話0120-094-777(通話料無料)

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

フジプレアムと社会を結ぶ情報誌

PRE【プレ】

フジプレアムの「プレ」は「先駆ける」、「アム」は「存在」という意味が込められています。この「プレ」をタイトルにした株主通信は、株主の皆様に必要な経営情報を先駆けてお届けし、フジプレアムと社会との関わりを分かりやすくお伝えするとともに、当社が誇る技術や将来性などをご紹介します。



特集

精密貼合の新規事業開拓

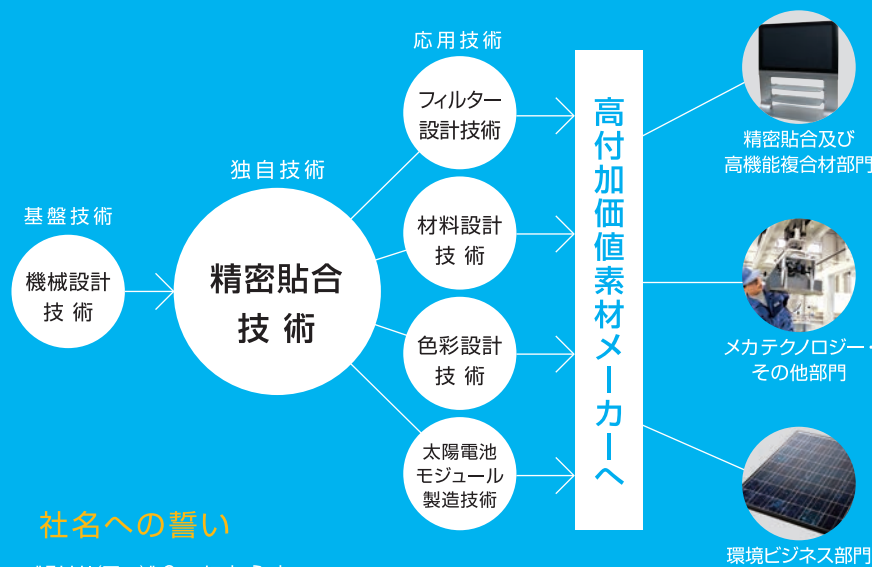
機能性素材の複合化から、広がる可能性

不可能への挑戦

フジプレミアムは「不可能への挑戦」を掲げ、未来を切り開く研究開発型企业です。

経営ビジョン

フジプレミアムは、精密貼合技術を活かし、新たな価値を創造する素材メーカーを目指します。



経営理念

「人」は「財」なり、「財」は「人」作りなり
創意、継続は大いなる「財」なり
自然は大いなる「恵」なり。
全てに対して大いなる「感謝」

高度情報化
社会

地球環境
共生社会

社名への誓い

"FUJI(不二)" 2つにあらず、
"pre" 先駆けて、"am" 存在する企業でありたいと、
常に「不可能への挑戦」を心掛けています。

株主の皆様へ

To Our Shareholders



光都工場

光都PV工場

100年先の暮らしを照らすため、自らに与えられた使命を果たす。
「共存・共生・共産」の理念で、住みよい社会づくりを目指します。

当社独自の精密貼合技術のニーズを探求し、新市場への参入を目指す。
LED関連製品の受託生産ラインが姫路工場で本格稼働。

株主・投資家の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より、フジプレミアムグループの事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第33期(平成27年3月期)第2四半期報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、時代の最先端を行く製品を作り続けるため、新たな市場を探求しております。そのため、より一層ビジネスに広がりを持たせるべく、当期よりセグメント名称を従来の「フラットパネルディスプレイ部門」及び「クリーン・エコエネルギー部門」から、それぞれ「精密貼合及び高機能複合材部門」及び「環境ビジネス部門」へ変更いたしました。

精密貼合及び高機能複合材部門につきましては、4Kテレビ等の高付加価値タイプのディスプレイの生産や、アミューズメント分野や産業分野向けの大型タッチパネルの生産が堅調に推移しております。更に独自の精密貼合技術を活かし、LED関連事業にも参入する等、新規ビジネスへの取組みを強化し、当社の新たな事業の柱としたいと考えております。

また、環境ビジネス部門につきましては、太陽電池の国内市場において、太陽光発電システムの需要が急速に拡大しましたが、太陽電池モジュールを新たに設置できる場所は減少しつつあります。しかしながら、当社の超軽量太陽電池モジュールは、従来は設置が困難であった駅ホームの屋根や工場の折半屋根といった場所へも設置が可能となるという点で、競合他社と差別化されており、需要が高まってきております。さらに、規制が緩和された農地並びに駐車場に設置可能な当社独自の追尾型太陽光発電システムを拡販してまいります。

今後ともあたたかいご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 松本倫長



素材の一体化や、機能の複合化から、 新しい事業への活路を開く。

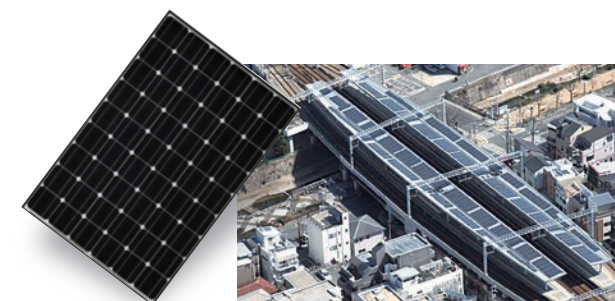
独自の精密貼合をコア技術として、
知見とノウハウを積み重ね、
ディスプレイ、タッチパネル、太陽電池モジュールなど、
さまざまな分野に事業を展開しているフジブレアム。
2014年6月には、LEDをやわらかいフィルム状の
基板に実装するCOF (Chip On Film)の
量産化を開始するなど、
これまで以上に新規事業開拓に向けた
気運が高まっています。
そこで今回は、新しい事業への挑戦を可能にする、
当社の強みや組織体制についてご紹介します。



～機能性素材の複合化から、広がる可能性～

「精密貼合」の先にある、 「機能性素材の複合化」。

1982年の創立以来、フジブレアムは研究開発型企業として歩みを重ねてきました。その中で進化を遂げてきた精密貼合技術は、世界的に見ても稀少な技術です。当社は、この技術を深く突き詰めることで、フラットパネルディスプレイの光学フィルターやタッチパネルなどの分野において、他にはない付加価値を生み出し、競争力を発揮してきました。2000年には、太陽電池モジュールの生産を開始。超軽量太陽電池モジュール「希(のぞみ)」やトラッキングシステム(追尾型太陽光発電システム)といった他社にはない機能を創造し、



超軽量太陽電池モジュール「希」を採用した駅舎の屋根



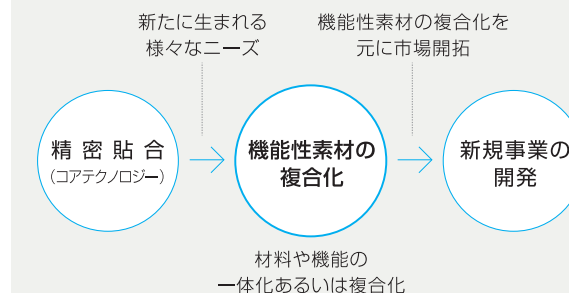
トラッキングシステム(追尾型太陽光発電システム)を設置した農地

農地や駅舎の屋根など、これまで設置できなかった場所へと太陽光発電システムの導入を広げつつあります。

そして今、当社では精密貼合の可能性をさらに広げるために、「機能性素材の複合化」というキーワードを掲げて、新規事業の開拓に取り組んでいます。たとえば、タッチパネルの分野では、画面の大型化に伴う視認性の向上や、デバイスの多様化による多彩な素材への対応など、次々と新たなニーズが生まれています。こうしたニーズに応えるために、精密貼合には、単に素材と素材を高精度に貼り合わせるという役割だけでなく、材料や機能の一体化、あるいは複合化という新たな役割が期待されるようになっているのです。

こうした状況は、新たな市場を切り拓く好機でもあります。精密貼合という言葉や既存の事業に囚われず、自分たちの技術をより幅広い分野に活かすため、積極的に新市場開拓に取り組んでまいります。そして、それを可能にする土壌が、当社にはあると考えています。(次頁に続きます)

「機能性素材の複合化」と「新規事業の開拓」

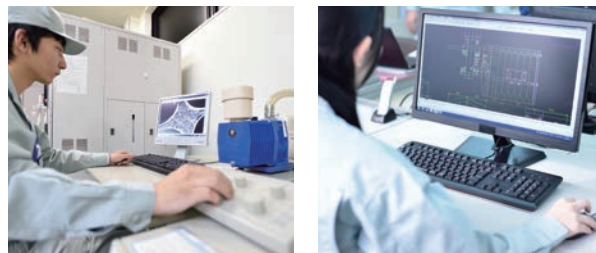


営業、研究開発、メカトロニクス。 三位一体の開発体制で、お客様のニーズに即応する。

フジプレアムが目指す、新規事業の開拓。その原動力となるのは、営業、研究開発、メカトロニクス、それぞれの専任者が綿密に連携し合う開発体制です。さまざまなお客様と日々コミュニケーションを重ねながら、新たなニーズを汲み取る営業部。たとえば、同じメーカー様でも、違う部署の方をご紹介いただくことで、これまで考えつかなかったような精密貼合の活用法に出会えるケースもあります。



新規事業に携わる、研究開発室 室長 池田(左)と執行役員 技術営業部長 牛尾(右)

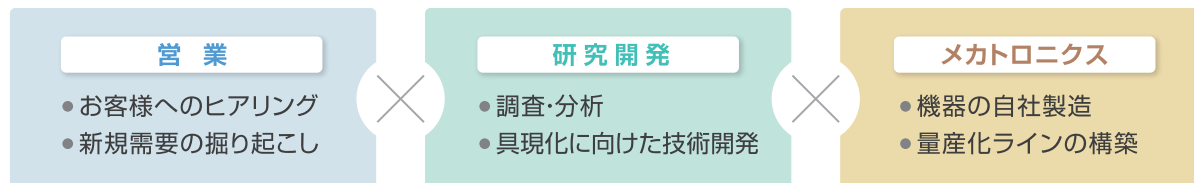


研究開発室(左)、メカトロ事業部(右)の作業風景

そのニーズを具現化するために調査分析や技術開発を行うのが研究開発室です。当社は、営業と研究開発の距離がとても近く、お客様のもとに同行して、共にヒアリングやご提案を行うことも多くあります。さらに、当社の歴史が機械製造からはじまっていることから、社内には高度なメカトロニクス技術を有したメカトロ部門があり、生産ラインを用途に合わせて一から構築することができます。

こうした組織編成とチームワークにより、お客様のニーズを速やかにかたちにしてご提案することができ、事業化・量産化の可能性を高めているのです。

■ 三位一体の開発体制



2014年に生まれた新規事業により、 新たにLEDの分野へ。 COFの受託生産をスタート。

このような開発体制の中から生まれた新規事業のひとつとして、青色LEDの開発で知られる日亜化学工業株式会社様に向けたCOF (Chip On Film)の生産があげられます。当社の精密貼合技術やメカトロニクスを活かした受託生産ラインを姫路工場に設置し、2014年6月に本格稼働を開始しました。

COFとは、従来のような固い基板ではなく、フィルム状のやわらかい基板にLED用ダイスを直接実装したもので、薄くて、軽く、自在に曲げられることから、これまでLED照明を取り付けることが難しかった曲面など、LEDの活用シーンを新たに広げることができると期待されています。さらに、COFは放熱性や配光特性の広さなどでも優れた性能を持つうえ、生産コストを低減できるというメリットもあります。

LEDの世界市場規模は今や1.5兆円を超え、2020年には7兆円に迫ろうかと言われています。こうした成長市場に



COF(Chip On Film)外観写真



において付加価値の高いCOF技術で競争力を発揮できれば、今後の継続的な事業の発展を見込むことができます。

また、省エネルギー化につながるLEDの普及を支え、環境負荷の低減にも寄与していくことができるものと考えております。

お客様のさらに近くで、 ものづくりの一端を担っていく。

日亜化学工業株式会社様との事例のように、お客様との共同開発において、今までよりさらにお客様と近い関係のもとで、ものづくりに取り組んでいく環境ができあがりつつあります。もともと当社の精密貼合技術は、ゼロからものを生み出すものではなく、お客様のニーズにもとづき、異なる素材同士を貼り合わせて加工することで、新たな価値を生み出してきました。

これからも、時代の先のニーズを見据え、新たな事業や分野へ挑み続けるために、これまで培ってきた研究開発力やメカトロニクスの技術をさらに活かし、素材の複合化によって新しい価値を生み出し、多くのお客様のものづくりの一端を担っていきたいと考えております。

CSR最・前・線 フジプレアムのCSR経営

地域貢献編

第23回フジプレアム株式会社納涼祭

当社は地域の皆様や従業員の家族との交流を大切にしております。毎年8月の恒例行事となる納涼祭も、今年で23回目となりました。今年も、より一層地域住民の皆様にも楽しんでご参加いただける催しを、従業員一丸となって企画いたしました。

今年の納涼祭の目玉は、地域住民の皆様にもご参加いただいた、プログラムの数々です。大白書中学校吹奏楽部の皆様には開会のセレモニーを演出していただきました。大会での受賞歴がある吹奏楽部の演奏は、とても素晴らしいものでした。



社長による開会の挨拶



当日は
たくさんの催しで
大盛況でした!

また、「早食い競争」は各事業部と、当日会場内からご参加いただいた地域住民の方々が、豪華景品獲得を目指し、熱いバトルを繰り上げました。会場からも声援が飛び交い、大いに盛り上がりました。

さらには、姫路の英雄 黒田官兵衛にちなんでご当地アイドルグループ「KRD8」の皆様もお招きし、素敵な歌とダンスを披露していただいた後、ビンゴゲームを行っていただきました。

こうした地域の皆様の応援のおかげで、当社の従業員だけではとてもできない、華やかな納涼祭にすることができました。



KRD8さんのライブパフォーマンス

今後も、このような機会を大切にし、フジプレアムを応援していただけるよう、当社としても地域貢献を続けて参りたいと考えております。



お客様で賑わう露店



盛り上がる早食い競争

トピックス Topics

TOPICS 01 第32回 定時株主総会を開催



第32回 定時株主総会を下記の通り開催いたしました。
〈日時〉平成26年6月27日(金) 10:00～
〈会場〉フジプレアム本社ビル4階 大会議室

TOPICS 02 相生市市民農園に 当社追尾型太陽光発電システムを設置

相生市農業協同組合が経営する市民農園「海のみえるやさいたけ」に、追尾型発電システムを設置いたしました。当社システムを導入することにより、今までと同様に利用者による野菜作りを行いながら、太陽光発電が可能となりました。同システムは、固定型発電システムと比べ、約1.4倍～1.5倍の積算発電量があります(当社比)。



設備容量:17.6kW (4.4kW×4基)
年間予想発電量:約 27,000kWh

2014 6 June 8 August 9 September 10 October

TOPICS 03 香寺農地および 夢前農地で 稲刈りを実施

当社追尾型発電システムを設置している2ヶ所の農地で稲刈りを実施いたしました。稲の生育、発電状況ともに良好でした。



写真は夢前農地

TOPICS 04 北九州TEK&FP合同会社 太陽光発電設備の竣工式を開催

平成26年10月8日、北九州TEK&FP合同会社 太陽光発電設備の竣工式を行いました。同社は平成25年12月、東レエンジニアリング株式会社と共同で設立いたしました。



設備容量:5,783kW
(地上設置型:5,738kW、追尾型:45kW)
年間予想発電量:約6,400,000kWh

TOPICS 05 播磨科学公園都市 メガソーラーに 当社パネルが採用

兵庫県企業庁が進めるメガソーラープロジェクトで、当社パネルが採用され、播磨科学公園都市にメガソーラーが建設されました。架台は木製で、兵庫県産の木材を使用しており、地産地消に貢献しております。



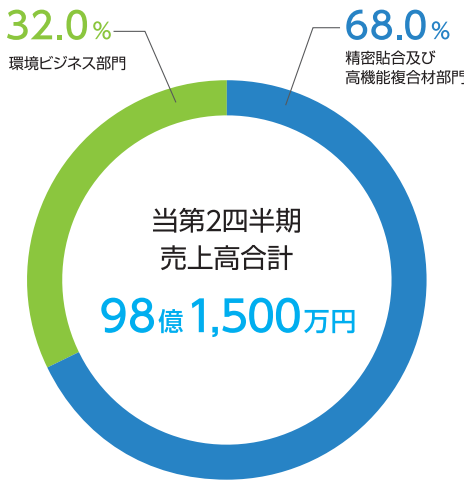
設備容量:4,996.8kW

Segment Information

四半期純利益5億8,500万円確保

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策等を背景に、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、消費税の引上げによる個人消費の落ち込みや、円安による原材料価格やエネルギーコストの上昇等、依然として先行きは不透明な状況が続いております。このような状況の中、当社グループの主力事業である精密貼合及び高機能複合材部門におきましては、タッチパネルやLED関連の市場が伸び、堅調に推移いたしました。また、環境ビジネス部門におきましては、再生可能エネルギーの固定価格買取制度により、産業用の需要が拡大し、好調に推移いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高9,815百万円（前年同四半期比39.3%増）、営業利益987百万円（同34.8%増）、経常利益983百万円（同27.9%増）を計上し、四半期純利益は585百万円（同52.1%増）となりました。



精密貼合及び高機能複合材部門



第33期第2四半期売上高
66億7,100万円

営業利益6億7,200万円

当部門につきましては、国内外におけるディスプレイ市場は、4Kテレビ等の高付加価値タイプのディスプレイ市場が拡大し、堅調な推移を見せております。また、タッチパネル市場におきましては、産業用分野やアミューズメント分野等に使われる用途が広がり、生産量も拡大しております。しかしながら、新興国での生産技術の進化や低価格品の台頭等、世界市場での競争は激しさを増しております。このような市場の変化の中、精密貼合技術やダイレクトボンディング技術を活用し、新規生産設備の導入による生産の高度化を推進、更に独自の技術を活かしLED関連事業にも参入する等、新規ビジネスへの取組みを強化し、実績を上げてまいりました。

この結果、売上高6,671百万円（前年同四半期比35.0%増）、営業利益672百万円（同39.2%増）となりました。

環境ビジネス部門



第33期第2四半期売上高
31億4,400万円

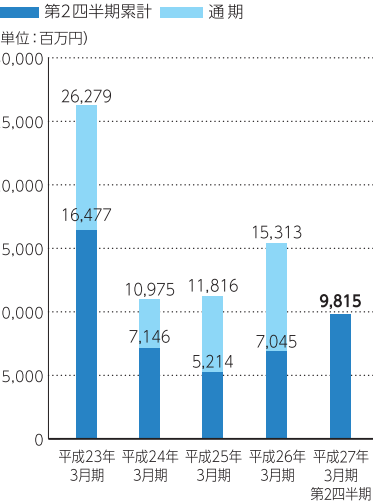
営業利益3億2,100万円

太陽電池の国内市場は、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の施行により、住宅用から産業用、更にメガソーラー発電所用に至るまで幅広く太陽光発電システムの需要が拡大いたしました。これらの市場に対して、競合他社とは差別化された特徴を持つ超軽量太陽電池モジュールが多くの受注を獲得し、販売量増加に貢献いたしました。しかしながら、海外製品の流入や新規参入企業の増加、そして電力会社による系統連系接続申込みへの回答保留が発生する等、市場環境としては課題が増加しております。このような市場の動きに対応すべく、独自の技術で開発した超軽量太陽電池モジュール、更に、規制緩和された農地並びに駐車場へ設置可能な追尾型太陽光発電システム等を拡販してまいりました。

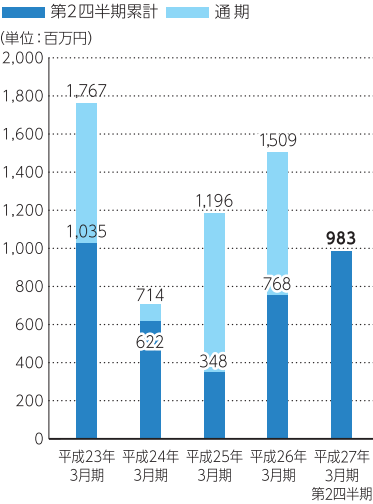
この結果、売上高3,144百万円（前年同四半期比49.4%増）、営業利益321百万円（同38.0%増）となりました。

Financial Highlight

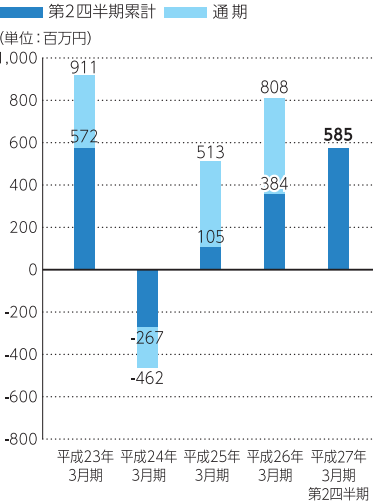
売上高



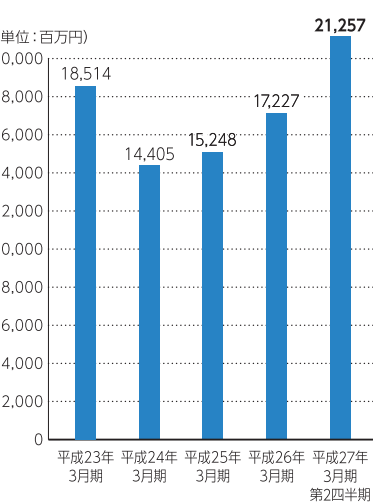
経常利益



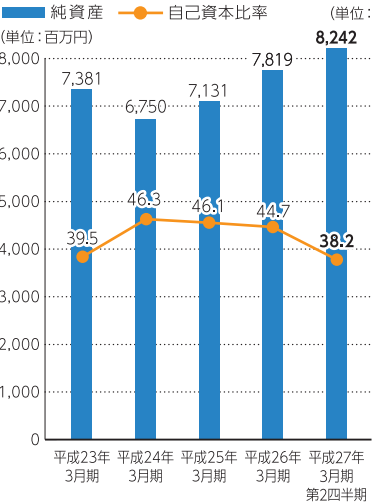
純利益



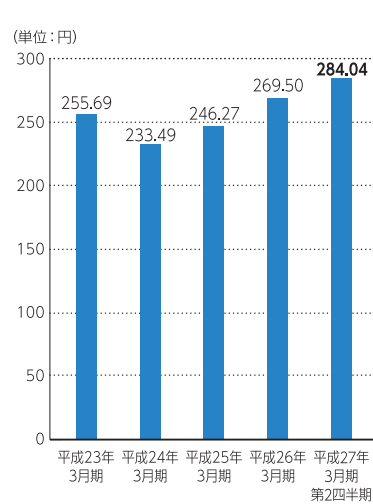
総資産



純資産・自己資本比率



一株当たり純資産



連結財務諸表

Financial Statements

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

第2四半期 連結貸借対照表

(単位:千円)

科 目		当第2四半期 連結会計期間末 (平成26年9月30日)	前連結会計 年度末 (平成26年3月31日)
資産 の 部	流動資産	14,810,306	10,915,584
	現金及び預金	8,098,129	3,708,690
	受取手形及び売掛金	3,298,314	4,542,343
	商品及び製品	1,519,014	967,737
	仕掛品	984,446	765,847
	原材料及び貯蔵品	701,626	706,622
	その他	218,821	241,909
	貸倒引当金	△10,046	△17,566
	固定資産	6,446,775	6,311,955
	有形固定資産	6,045,234	5,903,796
	無形固定資産	12,711	16,013
	投資その他の資産	388,829	392,145
	資産合計	21,257,081	17,227,540

第2四半期 連結貸借対照表

(単位:千円)

科 目		当第2四半期 連結会計期間末 (平成26年9月30日)	前連結会計 年度末 (平成26年3月31日)
負債 の 部	流動負債	8,184,856	7,463,187
	支払手形及び買掛金	2,794,668	2,310,257
	短期借入金	2,200,000	2,700,000
	1年内返済予定の長期借入金	2,543,415	1,632,013
	未払法人税等	385,135	459,008
	賞与引当金	15,612	15,563
	その他	246,025	346,344
	固定負債	4,829,272	1,944,423
	長期借入金	4,666,600	1,770,000
	その他	162,672	174,423
	負債合計	13,014,129	9,407,611
純資産 の 部	株主資本	8,078,832	7,664,812
	資本金	2,000,007	2,000,007
	資本剰余金	2,440,803	2,440,803
	利益剰余金	4,501,912	4,087,891
	自己株式	△863,890	△863,890
	その他の包括利益累計額	37,486	36,266
	少数株主持分	126,633	118,850
	純資産合計	8,242,952	7,819,928
負債純資産合計		21,257,081	17,227,540

第2四半期 連結損益計算書

(単位:千円)

科 目	当第2四半期 連結累計期間 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)
売上高	9,815,942	7,045,982
売上原価	8,282,051	5,767,637
売上総利益	1,533,891	1,278,344
販売費及び一般管理費	546,696	546,174
営業利益	987,195	732,170
営業外収益	20,464	58,075
営業外費用	24,143	21,537
経常利益	983,516	768,708
特別損失	13,683	1,378
税金等調整前四半期純利益	969,832	767,330
法人税、住民税及び事業税	412,373	409,909
過年度法人税等	△37,794	－
法人税等調整額	2,001	△38,290
少数株主損益調整前 四半期純利益	593,252	395,711
少数株主利益	7,782	10,901
四半期純利益	585,469	384,809

第2四半期 連結包括利益計算書

(単位:千円)

科 目	当第2四半期 連結累計期間 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)
少数株主損益調整前 四半期純利益	593,252	395,711
その他の包括利益	1,220	32,802
その他有価証券評価差額金	△1,488	9,556
為替換算調整勘定	2,709	23,245
四半期包括利益	594,473	428,513

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	当第2四半期 連結累計期間 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,590,875	△560,962
投資活動による キャッシュ・フロー	△324,568	△298,297
財務活動による キャッシュ・フロー	3,130,330	433,076
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△7,199	3,141
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	4,389,438	△423,042
現金及び現金同等物の 期首残高	3,658,690	3,974,785
現金及び現金同等物の 四半期末残高	8,048,129	3,551,743

Profile

会社概要

(平成26年9月30日現在)

商号	フジプレミアム株式会社 Fujipream Corporation(英)
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役社長 松本倫長
資本金	2,000百万円
事業内容	ディスプレイ用光学フィルター関連事業 光学製品関連事業 太陽光発電関連事業 他
従業員数	274名(連結・臨時雇用含む)
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場／研究所／PV工場 東京オフィス
連結対象となる子会社	フジプレ販売株式会社(設立:平成13年4月) 上海不二光学科技有限公司(設立:平成15年9月)
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行／みずほ銀行

取締役及び監査役

(平成26年9月30日現在)

代表取締役会長	松本 實藏
代表取締役社長	松本 倫長
常務取締役	澁谷 尚
取締役	名村 信彦
取締役	木村 裕史(社外)
常勤監査役	松本 毅(社外)
監査役	瀧元 一(社外)
監査役	松原 徳文(社外)

株式の分布状況

(平成26年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	4,226名

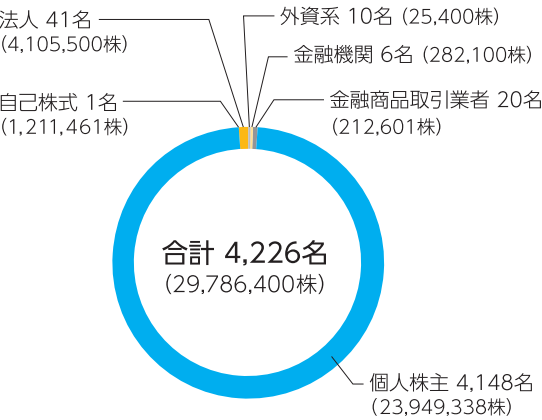
大株主の状況

(平成26年9月30日現在)

松本 實藏	13,130,700株
松本 倫長	2,441,400株
松本 庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
フジプレミアム株式会社	1,211,461株
旭硝子株式会社	936,000株
リンテック株式会社	936,000株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
松本 春代	360,000株
松本 守雄	330,000株

株式分布状況

(平成26年9月30日現在)



HARIMA - TAMBOU

播磨探訪

フジプレミアムは
オフィシャル
スポンサー

世界遺産
姫路城マラソン

1万人のランナーが城下町を駆ける

Vol.28
姫路市初のフルマラソン！

平成26年はNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」で全国から注目を集めた姫路市。そして、平成27年春には、いよいよ姫路城の大手守保存修理事業が完了し、新しく生まれ変わった大手守がグラインドオープンを迎えようとしています。そんな盛り上がり層引き立てるかのように、平成27年2月、姫路市初となるフルマラソンが開催。世界遺産の姫路城を中心に、1万人のランナーが姫路の街を駆けめぐります。市街地では城下町の歴史情緒と多くの人々の歓声に包まれ、一步街を離れると自然豊かな風景が広がる。姫路ならではの魅力が詰まったコースになっています。ぜひ、沿道での応援に出かけてみてはいかがでしょうか。フジプレミアムも、協賛社としてランナーのみなさんを応援しています。

世界遺産 姫路城マラソン2015

開催日時：2015年2月22日(日)
参加人数：10,000人
スタート時刻：午前9時
主催：世界遺産姫路城マラソン実行委員会

マラソン観賞も、散策も楽しむ！
コース周辺 見どころ案内

- スタート地点付近**
姫路西御座敷跡庭園 好古園 姫路市本町68
世界文化遺産姫路城を借景に、姫路市制百周年を記念して造営された日本庭園。園内の茶室やお食事処で、ほっこりひと息。
- 10km地点付近**
書写山圓教寺 姫路市書写2968
コースから夢前川越しに見える書写山。ロープウェイで山上に登ると“西の比叡山”とも呼ばれる圓教寺があります。
- 15km地点付近**
塩田温泉郷 姫路市夢前町塩田
300年前から続き、江戸時代に遠方から湯治客を集めたといわれる名湯。ランナーや応援客の体と心を、やさしく癒やしてくれるはずです。

